

## 2013 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商学部	身分	教授
氏名	渡辺 岳夫		
NAME	Takeo Watanabe		

## 1. 研究課題

(和文) 利益情報が自己効力感と自律的動機づけに及ぼす効果に関する理論的研究

(英文) A study on the effects of profit information on self-efficacy and autonomous motivation

## 2. 研究期間

2年間

## 3. 研究の概要(背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文)

本研究の目的は、MPCSの情報上の最大の特徴である「利益」を評価尺度とすることと、自己効力感および自律的動機づけとの関係について、分析モデルを理論的に構築することである。

2013年度は、MPCSに関する実証研究をサーベイし、その行動的・心理的効果を考察し、それらの研究文献にあらわれる様々な用語・概念を整理し、統合的なフレームワークを構築する計画であった。この計画をするにあたって、特に、自己効力感や自律的動機づけといった概念に、統合化の糸口があると考えたため、徹底的に、MPCS関連の文献を渉猟するとともに、組織心理学、教育心理学、ポジティブ心理学などの分野の文献についてレビューを行った。

2014年度については、利益情報が人間心理に及ぼす影響について、特にフレーミング効果に焦点を当てて、理論的な考察を加える計画を立案した。Kaplan & Cooper (1997)では、従業員の業績は、原価節約額や不良品低減率などのネガティブな指標で測定される場合よりも、日々の利益額というポジティブな指標で測定される場合の方が、業務改善に対する認知的効果・動機づけ効果ははるかに高いとしている。そこでは利益という指標のポジティブさが、従業員に望ましい認知的影響を及ぼすことが示唆されている。また、渡辺(2008)は、そのような現象の理論的背景を探求し、属性フレーミング効果が作用している可能性を指摘している。以上のような分析視角に基づき、利益情報の認知的効果の高さについて、理論的な考察を加えた。

(英文)

The purpose of this study is to clarify the effects of profit information on self-efficacy and autonomous motivation. The major findings of this study are that profit has good cognitive effect and brings in an increase in autonomous motivation.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

<b>【学術論文】</b> (著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)
①渡辺岳夫「アメーバ経営システムの影響機能と経営理念」『会計』第 186 巻第 4 号, pp.16-30,
2014 年
②渡辺岳夫「アメーバ経営システムにおける社内売買単価の設定方法とその効果」『商学論纂』
第 55 巻第 4 号, pp.707-735, 2014 年.
<b>【学会発表】</b> (発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)
<b>【図 書】</b> (著者名、出版社名、書名、刊行年)
渡辺岳夫「原価計算システムの影響機能：目標整合性の促進とインタラクティブ・コントロールに関する考察を中心として」『原価計算制度の回顧と展望』中央大学出版部, 2014 年.
<b>【その他】</b> (知的財産権、ニュースリリース等)